

# 伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第45号

発行日：平成22年5月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

15周年を迎えて

会長 池田利男

15周年を迎え、誠に御目出度い次第です。

平成8年発足時の第1期生をはじめ、各期の会員の皆様方によるご努力とご研鑽の賜が今日の火曜会そのものです。我々のモットーは「みんなで楽しくやりましょう」です。皆様方会員のご努力により、会が楽しいから長続きするわけです。

会の日々の曜日別グループによるガイド、旧岡田家酒蔵の張り付きガイド、史跡めぐり、各分科会での研鑽等、色々と苦労はありますが楽しければ苦労はいといたしません。苦労の後には必ず、報われる楽しみがあると信じています。「文化財ボランティア」の名の下に我々は集まっております。今年度の第15期生、7名の入会により、総人数66名の大所帯となりました。会員皆様の自覚と見識が高く、会で学ばれたことを基に市民の皆さんの還元されていることがよく顕れています。

①②③④で言うならば、平成8年発足時の①から始まって、10周年の平成17年の②、そして15周年の平成22年は③へと一大飛躍が目の前です。みんなで楽しく頑張りましょう。

ご挨拶

伊丹市教育委員会生涯学習部社会  
教育課 課長 田中 茂

皆さま、はじめまして、田中と申します。どうぞよろしくお願いたします。貴会の活動につきましては、以前柿衛文庫に勤務しておりました折より、日々のガイドはもちろん、JR西日本の観光キャンペーンの際にもご協力をいただいておりますことは身近に見ておりました。この場を借りまして改めてお礼申しあげます。

さて、今年は平城遷都1300年祭などにより、歴史全般への関心が高まっています。本市におきましてもロマン事業や埋蔵文化財の発掘調査などを通じて、文化財への関心・愛着を持っていただけるよう取り組んでまいりたいと思っておりますので、ご支援、ご協力の程よろしくお願いたします。

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や旧郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。(☎：072-784-8090)

## 「にがり」を下さい 副会長 酒井かづえ

この度、後藤副会長の後任という予想もしなかった大役を不安と戸惑いの中でお受けすることになりました。伊丹の特産品として国内の約99%の生産をしている南京桃は、原木に卓越した技術で接ぎ木をして、赤・白・ピンクの三色の花を咲かせていますが、私もうまく接ぎ木が出来ますかどうかは、しばらく時間がかかると思います。また、豆腐は万人に愛され、柔らかくて食害ありません。しかし、「にがり」を入れないと豆腐として固まりません。

私に「にがり」と言う会員皆様のご意見とご協力を頂いて、味のある火曜会の活動が出来ます様に微力ながらお手伝いをさせて頂きますので宜しくお願いいたします。

## 火曜会と共に 坂根 俊彦

当会に在籍すること15年目を迎えることになりました。今日まで、会員皆さん共々会の運営にかかわってきましたが、その間に私自身の勉強になり、後に役立った経験を少し書きたいと思います。

火曜会発足時において、小、中学生対象の事業である土曜ファミリー講座を市教委から受託して、すこしでも会の財源の足しにと計画しました。初回は準備不足などで、受講者（生徒と保護者）は少なく指導者である会員の数が多い状態であった。この状態では、会の力量が問われるので、幹事会で検討し次回からは特に小学生を対象に興味のもてる内容を企画しました。1) 講座の内容を土器作りと野焼きを目玉講座とし、2) チラシの

内容は弥生時代の住まいや埴輪土器を描いたイラスト画をつくり、主に市内小学校に配布しました。その効果があり、受講者は大幅に増え企画は成功しました。

この講座で得た教訓は、受講者の目線で企画・立案し、またチラシ等の内容は文字でなく、絵など一目でわかる手法を取ること。講座における説明は出来るだけ目視できる教材を使い受講者に理解しやすくすること。また会員の特技を活用すること、例えばイラスト画の得意なT氏には、チラシの作成を担当、また陶芸を得意のS氏には、埴輪土の提供等をお願いしました。

このような体験は以後の私自身のガイド案内にも重ね合わせる事ができました。それはガイドを希望される団体の意向を事前に十分打ち合わせをし、また聞き手の目線に沿った説明をし、自身の知識を押し付けず、理解していただくことにとめたことです。

## 80の手習い 亀井 尚

昨年一年間NHKラジオ放送で毎日ロシア語を聞いた。

かつて耳で聞いたロシア語を、テキストを頼りに文字から入ると15歳から17歳までの耳学問で覚えていた主要単語を以外にも忘れずに覚えていることに我ながら感心した。しかし、エカテリーナ先生の美しい発音の新しい単語が記憶に中々残らないのがもどかしく、老齢を強く感じた。

ロシア語に英語のBE動詞が無いのに気がついた。会話だから動詞は省いているのだと思っていたが、テキストを手にして、例えば私は○○であるは、ヤー ○

○、ソ連の女性宇宙飛行士からヤーチャイカ（私はかもめ）と挨拶したのを感じている。

文字は33字あるが奇妙な文字がある。**а у и Э о**（アイウエオ）これに子音をそれぞれの字頭におくとほぼローマ字的発音になるので読みやすいが、しかし、女性、男性中性の文法はかなりややこしい。女性から学び、男性の場合はこうだと親切な教義を受けないと、女性言葉で話し、とんだ恥をかくことになる。

また、地名、国名など固有名詞が変化する。その地に住む、行く、来るは、英語及び他のヨーロッパ語では、into, from等の前置詞ですむが、ロシア語では地名までが語尾変化する。例えば、ノボシビルスクでは、来ましたは、語尾に a を、住んでいるのでは語尾に e を付ける等の語尾変化がある。又ロシアから来ましたでは、ヤはイに代わる。日本を意味するイポンニヤは二ポンニイに語尾変化するややこしさがある。

日本語化したロシア語を若干紹介すると、イクラ、ノルマ、コンビナート、キオスク、インテリゲンチャー、等。フランスのビストロ＝小さな肩の凝らないフランス料理店はロシア語のビストレーが語源。ナポレオンがモスクワから撤退、ロシアに攻め込まれた時、ロシア兵から早くの意味でビストレーとせかされたから。

曜会通信 No44 号に掲載の「鉄砲伝来異聞」の中で訂正箇所がありました。お詫びの上訂正させていただきます。5頁のアンダーラインの文章上から7行目に“鬼が谷”とありますが、正しくは『鹿ヶ谷』です。京都東山のふもとにある地名で、ひょうたん型の鹿ヶ谷かぼちゃで有名です。また、中世には貴族の別荘が散見され、風光明美な環境が好まれたようです。

## 平成22年度定期総会 細川 勝海

伊丹市文化財ボランティアの会の4月度定例会は、年度替りでもあり、4月13日（火）に伊丹市社会教育課の田中課長、みやのまえ文化の郷の瀧内統括責任者、我々の事務局である社会教育課の赤松氏・田中氏を来賓に迎えて定期総会としても開催されました。池田会長、田中課長、瀧内統括責任者の挨拶の後、総会成立要件である会員の過半数の出席（58名／66名中）を確認し、21年度の活動報告、決算報告、監査報告が行われて、満場一致で承認されました。次に、22年度の活動計画案、予算案、新幹事選任が承認され、池田会長の再任による新体制で、2年間で運営していく事になりました。尚、4月に4組のプロジェクトチームを立ち上げ、3ヶ月を目標に会の体制を見直していく方針が打ち出されていますので、関心のある方は定例会後の午後、同じ中央公民館で開催していますので、覗いてみて下さい。



## ボランティアガイド養成講座 門 秀子

15年目を迎えたボランティアガイド養成講座には13名の受講者が熱心に講義に耳を傾けられました。私を含め、既に講座終了者である現会員も知識をより深めるために講義に参加しました。有岡城や伊丹郷の酒蔵をはじめ、仏像に関する講義、また今年は鴻池始祖の生誕440年に当たるため、今回特別に大阪歴史博物館の学芸員より鴻池家に関する講義を受けることができました。

講座の最終日、3月20日は市民の方を現地案内する実地ガイドが開催されました。汗ばむほどの陽気の中、昆陽池を経て天日神社までの約4kmを歩き、歌碑、鴻池にまつわる神社、石碑を回りました。13名の受講者は少し緊張されながらも、事前の学習、準備の成果を存分に発揮されていました。1年前に自分も同じように初めての実地ガイドを体験した緊張と達成感を思い出



し、日々の学習とよりよいガイディングの研鑽の必要性を感じました。15期生の皆さまガイドお疲れ様でした。ボランティアの会でお会いできること、ともにガイドに携わることを楽しみにしております。

## 真宗興正派について 中川 康

浄土真宗興正派の本山である円頓山興正寺がどこにあるかご存知でしょうか？そう、興正寺は西本願寺の南隣にあります。その境内にある建造物は、西本願寺のそれらに比べればやや劣るものの、堂々たる風格を有しています。私たちは、伊丹市北村の教善寺が興正派寺院であること、また塚口御坊（興正派寺院、現在の正玄寺がその後継）が中世西撰において一向一揆の中心であったことを知っています。富田林寺内町の中心は興正寺別院であり、富田林は今も寺内町の風情を色濃く残しています。

昨年春、西本願寺御影堂の大修復が終了しました。御影堂の大屋根、それを支える柱群、建築彫刻（妻飾り、虹梁、組物）および親鸞聖人の木像をまつる金箔の厨子は素晴らしいものです。ところで、興正寺の御影堂内陣の組物も五色に彩られ、それは見事なものです。

それでは、真宗興正派の歴史的背景を振り返ってみることにします。興正寺の寺号は興隆正法の語に因むもので、興隆正法寺を略し、興正寺というのだと伝えられています。興正寺の寺号には正法を興隆するとの願いが込められています。

寺伝によりますと、親鸞聖人は、越後国への配流（承元の法難、承元元年（1205））から赦免され、その翌年（建暦二年（1212））京都に帰り、山城国山科郷に一字を創建し、順徳天皇より「興隆正法」の勅願を賜り、興隆正法寺と名づけました。しかし、親鸞聖人が山科に興正寺を建てたとするには寺伝以外の根拠に乏しく、史実としては、親鸞聖人は配流先の越後より直接関東方面へ向かったとする説が有力です。

興正寺は、事実上、歴代の第七世とさ

れる了源上人によって開かれました。上人は関東で教えを受け、京都山科に興正寺を建立しました（正中元年（1324））。興正寺は親鸞聖人の関東の門弟の流れ（武蔵国の荒木門徒や阿佐布門徒）をくんでおり、聖人の教えが関東から京都に及んで開かれた寺といえます。山科興正寺では庶民教化が進められ、庶民の信仰を集めて興正寺は発展していきます。興正寺は、彼岸会を行ったり、あるいは葬送や年忌供養といった仏事に関わり、庶民の願いに沿うかたちで教化を進め、真宗の教えを広めていったと考えられます。

教学の面で指導力を発揮したのが、本願寺の存覚上人です。存覚上人は本願寺第三世覚如上人の長子で、本来ならば本願寺を継ぐべき人ですが、父の覚如上人から生涯に二度義絶され、結局本願寺を継ぐことはありませんでした。最初の義絶の際に存覚上人を助けたのが了源上人であり、存覚上人を興正寺に招きました。存覚上人は当時の真宗の中では突出した学僧であり、多くの著述を残しています。存覚上人は了源上人の所望によって数十帖の聖教を新たに書いたり、書写したとも言っており、自身の著述にとどまらず、多数の聖教の書写本を興正寺にもたらしたと考えられます。存覚上人は一般の仏教や習俗に沿って教えを説き庶民教化に努めたと言われますが、存覚上人が了源上人に協力を続けたのも、庶民教化という点で了源上人と一致した意見を持っていたからだと考えられます。

創建後数年を経て（嘉暦三年（1328）前後）、興正寺は山科から京都東山の渋谷の地（京都市東山区茶屋町）に寺基を移します。その際、ご本尊が光を放ったことから、後醍醐天皇から佛光寺の寺号を賜り名を改めたといわれています。実際のところは、佛光寺という寺号は存覚上人

がつけたもので、「存覚一期記」に存覚上人が興正寺の寺号を佛光寺に改めたことが明記されています。佛光寺は、光明本尊（名号を中心にその周りに如来像や、インド、中国、日本の先徳像を描いたもの）、名帳（前半に名帳を作成した趣意を述べた序文があり、その後に道場主とその門徒の名を列記した部分が続くという構成になっている）、絵系図（名帳をもとに作られた系図）などの媒体を用いて布教活動に力を入れ、精力的に西国の布教を推し進め、畿内以西の真宗念仏宣布の根本法城となりました。このような佛光寺の庶民教化に対して、覚如上人は「改邪鈔」を書き、絵系図などを真宗にあらざるものと批判しています。当時、本願寺が教学の伝授と指導を担う寺であったことから、布教方法に相違が生じても致し方ないことです。

佛光寺の教勢は、第十一世性曇上人の時代に飛躍的に拡大し、隆盛を極めました。その頃（応永二十年（1413））の佛光寺の繁栄の様子は「本福寺址書」に記述されています。「大谷の本願寺には参詣の人はいないが、佛光寺には名帳、絵系図の最盛期で、人々が群がっていた」と述べられています。現在の興正派寺院には、性曇上人の時代に寺が開かれたとの寺伝を伝える寺院が割合に多くあります。塚口御坊の後継である正玄寺や奈良県の八川照寺がそのよい例です。本願寺は、当時青蓮院の末寺に過ぎず、本願寺第八世蓮如上人の時代寛正六年（1465）に、延暦寺西塔の衆徒により大谷本願寺は破却され、次第に荒廃していきました。

文明十三年（1481）、第十四世を継ぐべき経豪（後の蓮教上人）は、山科本願寺の蓮如上人に帰依し、佛光寺を弟経營に譲り、再び山科の地に多くの門徒と共に別に興正寺を興しました。48坊のうち

4 2 坊などが有力末寺とともに本願寺に帰参してしまいました。佛光寺の寺勢は急激に衰え、代わって本願寺が台頭することになります。蓮教上人は蓮如上人と力をあわせて念仏弘通に奔走しましたが、天文元年（1532）、興正寺は兵火にかかって山科本願寺とともに焼失しました。天正十三年（1585）、第十五世蓮秀上人は真影を供奉して大坂天満の地に、天満本願寺とともに真宗興正寺として法灯をかかげました。その後、佛光寺は百年ほど渋谷にあって、天正十四年（1586）頃豊臣秀吉の命により現在の五条坊門の地に移ります。天正十九年（1591）、本願寺も秀吉の命に従い大坂天満から京都市七条堀川の現在地に移転しました。興正寺は、本願寺と歩調を合わせ、度重なる移転にも常に行動を同じくしています。堂舎が本願寺と隣接して建てられているのも本願寺との深い関係を示しています。また、一方で興正寺には本山として独立しようとする気運も強く、明治九年（1876）、第二十七世本寂上人は、興隆正法の実を挙げるべく、真宗興正派として独立しました。多くの変遷を経ながらも「正しい法を興す」という願いのもと興正寺の歩みは続けられています。

参考文献：熊野恒陽「了源上人 その史実と伝承」



## 北条早雲の生き方が教えるもの 「東国初の戦国大名の誕生」

(2 回目) 濱田 辰洋

早雲は永享四年(1432)の生まれで、出身地に関しては山城宇治、大和在原など諸説あり、一般には伊勢の素浪人から戦国大名にのし上がったというストーリーが定着しています。しかし最近の研究では室町幕府の政所（まんどころ）執事を務めた伊勢氏の一族備中伊勢氏の出自という説が有力になってきました。政所執事とは今の財務大臣のように幕府の財務を一手に引き受けていた高級官僚ですから、相当の家柄の出と推察されます。ちなみに早雲は自らを伊勢新九郎盛時（出家後は早雲庵宗瑞）と名乗り、北条を名乗るようになったのは二代目・氏綱（うじつな）の時からです。応仁二年(1468)、早雲は駿河国の守護大名・今川義忠に嫁ぎ北川殿と呼ばれていた妹（姉という説もある）の招きで同国に下ります。一時期、伊勢で浪人をしていた早雲を見かねた北条殿が呼び寄せたのです。表舞台に立つことがなかった早雲の運命を一変させたのは、間もなくして起きた今川家の家督争いでした。

争いは当主・義忠が戦で討ち死にしたことに端を発します。義忠には龍王丸（たつおうまる）という六歳の息子がいましたが、家中では龍王丸に家督を継がせようという動きと、義忠の従兄弟・小鹿新五郎範満（おしかしんごろうのりみつ）を当主に推す動きが対立。まさに一触即発の危機にある時に、早雲は「龍王丸が元服するまでは範満が家督を代行する」という折衷案を出し、分裂の危機を避けたのです。ところが、範満は一度家督代行に就くと、龍王丸が十五歳になって元服を迎えても、そ

の座を降りようとしませんでした。早雲はその頃、駿府を離れて京で幕府に仕えていましたが、北川殿からこのことを知らされると密かに駿府に戻り、範満を倒してしまいます。龍王丸は今川家の当主となり今川氏親（いまがわうじちか）を名乗りました。

早雲はその論功行賞として駿河国東部・現在の沼津市にあった興国寺城を与えられ、一城の主となります。一国の将としての早雲が数々の武功をたてるのはそこからです。一説によると早雲はこの時五十七歳すでに老境に入った早雲は武将として第二の人生を切り開こうと燃えていました。高所にある興国寺城から伊豆半島を見渡しながら、「眼下に広がるこの土地をいつか自分の手で治めたい」という思いがよぎったに違いありません。実際、興国寺城は地理的に見ても伊豆半島の要所でした。『北条五代記』によると、早雲は伊豆の温泉で湯治をするように見せかけながら様々な政治情報を収集し、この地に攻め入る計画を立てたとされています。

伊豆地方を治めていた堀越公方（ほりこしくぼう）・足利政知（あしかがまさとも）が死に、後継者を巡るお家騒動にまで発展したのはそういう時でした。早雲は混乱の隙間を狙い、今川氏親の援兵を得て一気に堀越御所を攻め落とすのです。機が熟するやすぐに手を打つ軍師としての才覚はこの時すでに花開いていました。堀越公方は室町幕府の出先機関といえるもので、小国の城主に過ぎない早雲がこれを倒し伊豆地方を自分の領地にしたことにより下剋上の戦国時代が幕を開けました。幕府に任じられた守護大名とは違って、自ら奪い取った土地を自ら支配する東国初の戦国大名の誕生です。私の研究によると、この伊豆討ち入りは明応二年(1493)

の出来事で、既に定説になっています。早雲が伊豆の領地を手にしたことは、駿河の今川氏親にとっても東の守りを固める上で大変な強みでした。袂（たもと）は分けても氏親にとって早雲は“頼もしい伯父”だったようで、氏親が遠江（とおとうみ）、三河まで軍を進めた時は、早雲自ら兵を率いてこれを支援しています。伊豆を制圧した早雲は次の目標として相模国を掌中に収めることに照準を定めました。伊豆の一大名の立場で満足できなかったのは、本人の野心だけではありません。戦国大名である以上、少しでも領地を増やし前に前にと進んでいかねばならない宿命を背負っていました。武功による恩賞を目的に集まってくる者たちを家臣として留めておくには、次々に領土を拡大していく必要があったのです。

その後の早雲は大森藤頼（おおもりふじより）を破って小田原城を攻略し、晩年には三浦義同（みうらよしあつ）・義意（よしおき）父子を討ち、相模全土を制圧します。三浦氏は東相模にしっかり根を下ろす豪族でしたから、伊豆討ち入りから相模平定まで二十年の歳月を費やしました。はっきりしたことは分かりませんが、この時八十五歳だったという説もあります。平定から二年後、早雲は家督を氏綱に譲りこの世を去ります。きっと「俺はやることはすべてやった」と満足しながら息を引き取ったのではないかと思います。

（以下次号）



## 主な活動記録

### ガイド実施記録 (2010. 02～2010. 04)

月	2010年02月		2010年03月		2010年04月		09.04～10.03累計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
火	1	15	1	90	2	57	6	205
水	1	30					9	295
木	1	27					10	268
金	1	55					11	351
土			2	75			8	451
日							6	140
計	4	127	3	165	2	57	50	1710

### ガイド内容

- ・平成21年度(1年間)  
コース別 **A**コース 14回 **B**コース 3回 **C**コース 1回 岡田・石橋家 29回  
その他 3回 市内から 224名 県内各地から 644名 県外各地から 842名

### どんぐり座

- ・平成21年度公演実績  
**4/22**有岡センター **5/30**岡田家 **9/27**有岡センター **2/3**岡田家  
計4回の公演
- ・5月2回の公演予定

### 行基会屋外研修

- ・4/5(月)行基が造営したと言われる昆陽下池。今は埋め立てられて正確には分からないが古地図を便りに、下池があったと推定される地域を探索した。(17名参加)

### 春の宮前まつり

- ・4/29(木)午前10時～三軒寺前広場で行われた紙カブト作りを支援し好評であった。

### 歴史ロマン体験学習支援

- ・2/20(土)流し雛作り 3/6(土)行燈作り 4/17(土)石包丁作り

### 5月～8月の予定

- ・毎月 第4火曜日 午前10時～有岡城跡の清掃実施(新規計画行事)
- ・定例会 5/11(火) 6/8(火) 7/13(火) 8/10(火)
- ・春季研修バス旅行 5/18(火) 湖北方面 渡岸寺観音堂(向源寺)～木之本地蔵院～賤ヶ岳(古戦場)～中江藤樹記念館
- ・歴史ロマン体験学習支援  
5/29(土)発掘現場で掘ってみよう 6/26(土)洞窟壁画に挑戦 7/24(土)勾玉作り
- ・8月 わくわく教室開催予定

### 編集後記

4月13日に総会を開催、そして新入会員7名を迎えて新年度がスタートした。今年『火曜会』が発足して15年目。その間、諸先輩方のご努力もあって旧岡田家酒蔵や市民ガイド等で“伊丹市文化財ボランティアの会”の名も市民の方に広く知られるようになった。これからも日々研鑽を重ね、喜ばれるガイドを心がけたいものだ。(TR)